

あたたかい寄附をありがとうございます

歴史ある養老駅を後世へ



11月25日(木)に株式会社野寺商店(高田)が創業100周年を迎えたことを記念して、代表取締役の野寺兼次さんより100万円を寄附していただきました。野寺さんは「養老鉄道を守る会」の会長を務めていることもあり「養老駅の整備に役立てて欲しい」と話し、大橋孝町長に目録を手渡しました。

いただいた寄附は養老駅の整備事業に充てさせていただき、養老鉄道の明るい未来を作るために利用させていただきます。

子どもたちの“おいしい”のために



11月25日(木)に株式会社丸明(三神町)より、調理用具一式と飛騨牛カレー100食を寄附していただきました。吉田明一代表取締役は「子どもたちの健やかな成長と、“おいしい”という笑顔を願って「こども食堂」事業を支援するために寄附しました。子どもたちの大好きなカレーも併せて寄附したので、ぜひ活用してください」と話しました。

現在「こども食堂」は町内の賛助会員や支援者によって支えられ、NPO法人いちごが主体となり、彩りや栄養が考えられたお弁当をまごころ込めて作っています。

マスクを町へ。その数なんと150万枚！



12月2日(木)に佐竹鉄工株式会社と佐竹販売株式会社(2社とも蛇持)より不織布マスク150万枚(佐竹鉄工(株)より80万枚、佐竹販売(株)より70万枚)を寄附していただきました。佐竹宏文代表取締役(2社(グループ会社)とも)は「養老町で生まれ育ち、経営する企業も活動の拠点としているので、なにか手助けをしたいという思いから、新型コロナウイルス感染症対策に役立ててもらえるようにとマスクを寄附しました」と話されました。

いただいたマスクは新型コロナウイルスやインフルエンザの感染拡大防止のために町内各世帯へ配布するとともに、施設にて活用させていただきます。

各世帯への配布については、27ページにて詳細をご確認ください。